

# Doctor's File

ドクターズファイル

vol.3938

## 田村 聡院長

DENTALANDたむら歯科(江東区/門前仲町)



東西線門前仲町駅1番出口から徒歩1分の場所に「DENTALANDたむら歯科」はある。院内は明るくて清潔、しかもお洒落で、いわゆる歯科医院の緊張感をまったく感じさせない。開放的なキッズルームもあるので、子どものかかりつけ医としても最適。また、診療メニューは幅広く用意されており、治療でも予防でも安心だ。クリニックの特色ともなっている予防歯科・メインテナンスでは、「PMTICリニカルコース」を修了した精鋭の歯科衛生士が施術を行う高水準のPMTICを受けることができる。田村聡院長は予防歯科の研鑽を積まれ、「治療よりも、予防」をモットーに患者の歯の健康を守ってきた。人柄も明るくサービス精神にあふれ、大変魅力的な先生である。開院までの歩み、クリニックの特色について、今度の展望などを田村院長にじっくりと伺った。

(取材日2013年11月1日)

### 通うのが楽しくなる歯医者者をコンセプトに

—“デンタランド”というように、「楽しい」、「明るい」印象を受けるクリニックですね。

それが、当クリニックのコンセプトなんです。先ほど見ていただいてお分かりかと思いますが、絵やインテリア、あと子どもさん用のガチャガチャだったり、いろいろと趣向を凝らしています。もともと、僕自身がイベント好きっていうのかな、楽しかったり、ワクワクするような雰囲気が好きなんですよ(笑)。なので、ディズニーランドとか、原宿のキディランドとか、そういったテーマパークまではいかないまでも、患者さんが笑顔で来られるようなクリニックをめざしたんです。歯科医院というと、やはり苦手な方もたくさんいますから、エンターテイメントな部分も必要だと感じます。デザインだけではなく、例えばフッ素のフレーバーなども全種類揃えるなど、子どもさんでも飽きずに通えるように工夫をしています。



—門前仲町で開院したのは何かきっかけがあるのですか？

ここは地元なんです。父が内科医で豊洲で開業していましたし、叔父も開業医でこのビルの隣に医院がありました。なので、特に開業する場所をどこにしようか、と考えたことはなかったですね。門前仲町界隈は生まれ育った場所ですから、恩返しというのか、地域医療に貢献したいという気持ちもありました。開業は1999年ですから、来年で丸15年ですね。3年前に増築して、今のスタイルになりました。

## —開業までの歩みをお聞かせください。

まず、歯科医師をめざしたのは、父や叔父が医師だったというのもあって、なにかしら将来は医療に携わる職業へ、と小さいころから考えていたからですね。医療分野の中でも生命活動の始まりである、噛むとか食べる、そういったことのお手伝いができる歯科医師を魅力的に感じていた覚えがあります。実際になってみても良かったなと思います。やはり、この仕事が合っていると感じますね。開院は、大学を卒業後、特別研究生として日本歯科大学大学院へ進み、その後クリニック勤務を経てからです。現在、当クリニックは予防歯科やメンテナンスに力を入れているのですが、実は開業当初、インプラントを中心にやっていこうと考えていました。というのは、大学院で放射線学の研究をした後に勤務したクリニックが、インプラント治療をメインにしていたんですね。先生もかなり腕の立つ方でしたし、研究あがりの初勤務でしたから、触発されたんです。もう20年ほど前のことですね。今ではもう使われていないですが、当時はリンコーというインプラントが主流でした。



## 敷居は低く、提供する診療メニューは高水準

### —なぜ、インプラント治療から予防歯科をクリニックのメインにしたのですか？



インプラント治療を中心にするにせよ、誰でも気軽に通えるような街の歯科医院をめざしたかったんですね。でも、それだと、どっちつかずになってしまうなども感じました。であれば、診療メニューの中心とするよりも、専門的にインプラント治療を行い実績を持つクリニックと連携し、状況に応じて架け橋になるといった方が、患者さんのためになると思ったんです。それが、きっかけですね。予防歯科にたどり着いたのは、ある書籍との出会いがきっかけです。予防歯科の大家である熊谷崇先生(現:医療法人社団 日吉歯科診療所 理事長)が執筆した「クリニカル カリオロジー」です。削って詰めて、がそれまでの歯科医院の

基本でしたから、読んで衝撃を受けました。「ああ、歯は削らなくていいんだ」って。それで予防歯科を特色とした、歯の健康を守る歯科医師をめざしたんです。今では、インプラント治療のために設けたオペ室は、歯科衛生士専用のメンテナンスルームになっています(笑)。

### —人々の歯の健康を守るためにあるクリニックなのですね。

そうですね。最近ではメンテナンスメニューのPMTICもだいぶ日本で浸透してきましたが、当クリニックに在籍している歯科衛生士は皆、「PMTICクリニカルコース」というセミナーを修了しています。このセミナーは、世界で初めてPMTICを提唱したベール・アクセルソン博士のもとで、PMTICを実践していた歯科衛生士・ブリギッタ・ニーストレンという方が直々に教えているものなんです。両氏共、予防歯科先進国であるスウェーデンの方ですが、予防歯科先進国という

前に国民自体が歯の健康に対する意識が高く、もっというと全身の疾病に対するの予防にも積極的なんです。なぜかという、病気になればお金がかかるのを知っているから。なので、そうならないためにはどうするか？ということが人々に定着しているんです。この考え方って合理的であり、とても健康的ですよ。ですから、そのお手伝いができるクリニックでありたいのと、予防の大切さも発信していきたいんです。

—先生の診療に対するこだわりをお聞かせください。

拡大鏡を用いて精度の高い診断と治療なども特色の一つですが、こだわりというは患者さんとのお話ですね。とにかくコミュニケーションを大切にしています。例えば、麻酔ひとつをとっても、「されてしまった」とか、逆に「してくれなかった」など、一人ひとりで捉え方が違うわけです。それが結局、患者さんとクリニックとのミスマッチになってしまう。やはり伝える、または聞くということは歯科医師にとって、とても重要なことだと思いますね。もともと、人と話すのが好きというのがあるんですが、僕はかなり患者さんとフランクに話している方じゃないかと思います。症状や治療の説明だけじゃなくて、趣味の話だったり、仕事の話だったり、もうなんでも(笑)。歯科医師だからといって上からものを言うのがイヤで、いち人間として患者さんに伝えたいというのがあるのと、好きな食べ物だったり、生活習慣だったり、何気ないことにも歯の健康に関するヒントが隠されていたりするんですよ。



## 歯の健康管理をする場所がデンタルクリニック

—毎日のデンタルケアに対するアドバイスはありますか？



特別なことはなく、ブラッシングとフロスなど、世にいわれているデンタルケアをしっかりとやるのが全てですね。ただ問題は、分かってはいるけれど……ということだと思います。毎日のブラッシングを大変に感じる人もいるだろうし、なかなか上手く磨けていない人もいるでしょう。そんな時に役立つのが歯科医院だと思うんです。例えば、髪が伸びれば美容室に行きますよね？ そういった感じで、プロのデンタルケアを受けに通うことをおススメしたいですね。歯科医院は、“痛い”とか、“怖い”治療を受ける場所じゃなくて、歯の健康管理をしてくれる場所なんですから。

### —休日はどうなリフレッシュをして過ごしていますか？

割と趣味は多い方で、その時々で興味が湧いたことに挑戦しているんですよ。最近ではサバゲーがとても面白くて。サバイバルゲームのことです。知人から誘われてはじめてんですが、すっかりハマってしまいました。迷彩服もしっかり持っていますよ(笑)。各地の山などにサバゲー専用のエリアがあるんですが、今回は千葉まで。患者さんの中にも好きな人がいて、たまに一緒に行くこともありますよ。数年前はゴルフもやっていたので、休日のリフレッシュという、外に出て体を動かすことが基本ですね。

### —最後に今後の展望をお願いします。

まず、これからも歯の健康を守るための歯科医院であり続けたいと思います。僕をはじめ、歯科衛生士やスタッフみんな一丸となって、知識や技術を絶えず磨いていければと。それが、患者さんのより良い生活のお手伝いになり、地域医療への貢献にもなれば素晴らしいことですよね。歯科医師としては、もっといろいろなことを学んでいきたいです。というのも、直接歯科治療には関係がないと感ぜられるかもしれませんが、「サプリメントアドバイザー」や「メディカルアロマコーディネーター」とか、「日本抗加齢医学会専門医」などの資格も持っているんですよ。なぜかといえば、歯って、体の一部だから。そして、口腔内は全身の健康に繋がっていると思うんですよ。歯科診療を基本にして、全身の健康へのお手伝いもできる歯科医師でありたいと思っています。なかなか、患者さんとしては、歯科医師に体の健康を、という意識はないでしょうが、そういうことも気軽に相談してもらえるように用意はしておきたいんです。

